

動詞で語る“日本文化と着物の世界”

2017年12月8日(金)開催

一般社団法人 日本観光通訳協会(JGA) 第一支部研修レポート

12月8日(金)午後、通訳案内士36名が台東区民会館9階に集まり「動詞で語る日本文化と着物の世界」研修が開催されました。今回は、個々に日本文化、例えば「茶道」「着付け」「日本建築」「折り紙」を学ぶのではなく、日本文化に共通した概念を横断的に学ぶ研修であり、後半は着物を見ながら考察するという全く新しい切り口で、多くの参加者から好評を得ました。講師は、特定非営利活動法人神奈川まちづかい塾理事長等多くの肩書をお持ちで、外国人向け講義経験が豊かな小林絃子氏です。



前半は、特別会議室(中)で、パワーポイントを拝見しながら小林絃子 講師からのご講義でした。日本列島の中心部を走る山脈と川、移り変わる四季、植生、地震等が、普遍ではなく常に「変化する」こと、島国であるが故に「優れた物は海の向こうから来る」と考え「新しい物はすぐ取り入れる」慣習などが古くから日本人の精神性や国民性に大きく影響していることが説明されました。また「折る」「畳む」「包む」「隠す」という基本動作が、神道、建築、食文化他多岐にわたる日本文化の形成一つ一つに影響している事に目からウロコでした。

後半は、隣の和室に移り、打掛をはじめ、袴(かみしも)等、数多くのお着物を拝見しながらの講義でした。33畳の和室いっぱい、参加者が楽しそうに手伝いながらお着物が広げられた様子は、あまり見たことのない華やかな光景でした。まず、着物の構成や反物での各パーツの採り方を分かりやすく紙で説明頂き、着物の歴史に触れながら各お着物の特徴や、洋服と違い等の説明を頂きました。全てが日本人の「折る」「畳む」「包む」「隠す」というキーワードに関連します。皇族が特別な催しの時にお召しになる十二単などの写真を見せて頂き、このような着物の写真を題材にとってファイルしておくの良いなど、通訳案内士に有益なアイデアも戴きました。



今迄にない切り口での日本文化の研修に多くの質問が飛び交いました。終了後もお着物が好きな参加者皆で着物を「畳み」、和室を後にしました。第二回目の開催希望の声を頂きました。次回をお楽しみに！